

八重山漁協青年部の皆さんの施設見学

2010年5月14日

八重山漁業協同組合青年部の皆さん8名が沖縄本島の
視察研修の一環で栽培漁業センターを訪問・見学されました。
当日はあいにくの雨模様でしたが、約1時間をかけて所内を見学。
日頃、海を職場とする皆さんですが、水槽の中の生物を熱心に観察。



ヒメジャコの親貝水槽で。



ヒメジャコの稚魚を見ながら、熱心な議論??



ナンクロロプシスの培養水槽で。
「青汁だ!」というメンバーも。
健康に良いかもしれませんが…??
でも、消化できるかな…?。



ハマフエフキの中間育成水槽で。
「小さい！ メダカみたい！」



「水槽の底の白黒の線は何???'の質問。
これは底掃除機(ロボット)が動くガイドラインです。



海面生簀にて。
タマカイを見て、「去年、八重山でもたくさん揚がったヨ」
どこかの活魚船が八重山沖で転覆して、魚が逃げたのだとか。
魚以外のものも漂着したようです。



「これぐらいの大きさなら、獲ったことがあるさあ」と自慢げに観察。



ヤイトハタの種苗生産水槽にて。
皆さん、思い思いに自主行動。
「あっちにもいるさあ……」



ハマフエフキ(タマン)の親魚水槽で。
採卵(卵を採る方法)の説明に納得。



ヤイトハタの親魚水槽にて。
魚たちも歓迎？の意を込めて、集まって来ました。



「雄が元気がなくて、なかなか卵を産まない。」という説明に、
「では、自分が替わりに……。」



スギの親魚水槽にて。
「この水槽は加温と冷却ができ、
水温と光を調整して「魚をだまし」て、
卵を産ませる」との説明に、皆さん、感心か??



ヒメジャコの種苗生産水槽にて。
底にヒメジャコの赤ちゃんがいますが、
残念ながら見えるのは海水と泡だけです。



天然珪藻を波板に付着させている水槽に見入る。



稚ウニの餌、「オゴノリ」の一種の培養水槽で。



ウニの幼生飼育室で説明を受けるメンバー。
担当の大城研究主幹(以前、八重山勤務)とコミュニケーション。
旧交を暖めていました。



万能投影機に映し出されたシラヒゲウニのプルテウス幼生。
この日、飼育されていたものです。
光の関係で、よく見えません。
ハッキリした写真は[こちらから](#)。

長時間の熱心な見学、お疲れ様でした。